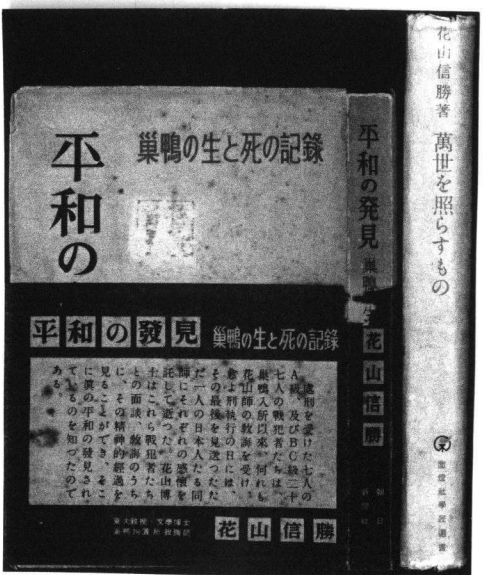


花山信勝 はなやま しんしょう 佛教學者、文學博士。明治二十一年十一月二十日石川縣金澤生れ、平成七年二月二十日歿（八六—一九九五）。道宗本願寺派の僧侶。第四高等學校を経て、大正十年東京帝國大學文學部印度哲學科卒。大學院に進み、島地大等小師等として日本佛敎史を専攻。十二年東洋大學教授、翌年歐洲留學。昭和十年 聖徳太子 製法華經義疏の研究』（全二巻、昭和八年刊）および帝國學士院恩賜賞受賞。終戦後巢鴨拘置所敎誨師として東條英機等七人のA級戦犯處刑に會ふ。またその折の著『平和の發見—巢鴨の生と死の記録』（昭和二十四年一月十五日朝日新聞社）がベスト・セラーとなり、戦犯敎誨師として一躍名を馳せた。二十四年北米開教區開教總長に任命せられ、アメリカへ活動して永住權を得ると、四十二年歸國。東京大學教授、國學院大學教授を務めた。

他の『日本佛敎の歴史と理念』（小野清一郎共編、昭和十五年一月）
 『十八日明治書院』（『聖徳太子と日本文化』（昭和十五年二月二十日、再刊、十月二十日敎學新聞）『日本精神叢書』（『勝鬘經注義疏の上宮王撰に關する研究』（昭和十九年八月二十日石波書店）、『ヒビビビる生命』（編著、昭和二十四年三月）『萬世を照らすもの』（白有恒社）、『すもの—佛敎學徒の記録』（昭和二十四年四月）『白有恒社』
 『佛燈社學士首選書』（『印度哲學と佛敎の諸問題—宇井伯壽博士上環濬記念論文集』（他二名



共編、昭和二十六年十一月十五日岩波書店（等あり）、「岩波文庫」
で、校譯 御聖徳太子 製法華義疏』（上巻・昭和六年五月五日刊、下巻・
八年八月二十日刊）、校譯 御聖徳太子 『上宮聖徳法王帝説』（狩谷安子人證註・平
子尚補校、家永三郎共校譯、昭和十六年二月十四日刊）、譯註『往生
要集』（昭和十七年六月二十五日刊）、校譯 御聖徳太子 製勝鬘經義疏』
（昭和二十二年八月十日刊）を出版。